

第3部「詳報・建設トップランナーフォーラム」

トップランナー 2007

◆ギフ発ミニ発電

金子工業（岐阜県下呂市）

に幾つかあるが、技術やノウハウは限定されている。現地調査を継続し、正確なデータを得るためにはコストが掛かる。助成金が確保でき、精緻なミニ水力発電事業を紹介する。助成金が確保でき、精緻なミニ水力発電は、飛騨地（せいち）なデータやノウハウが蓄積できれば他の同一条域の随所に見られる谷川の水流を活用する。「自然地形と件下でも活用できる。野尻氏という資産を有効活用して事業は「投資の回収には時間を要化する。環境への負荷も軽減するが、新しい事業の柱になる」と語る。同協会を中心に岐阜大学、岐阜県建設業協会、岐阜県建設研究センターが連携し、本年度は事業化に向けて

深松組（宮城県仙台市）の深松努氏が紹介したのは、未開菜園（仙台市）、フクタ物

ミニ水力発電の事例は国内

来菜園（仙台市）、フクタ物

△今回紹介する企業▽

- 金子工業（岐阜県）／深松組（宮城県）などのグループ／バンテック（栃木県）／真人（長崎県）

環境ビジネス分科会

4

産（岡山県倉敷市）、金亀建設（愛媛県松前町）と共に取り組んでいるバイオエタノール事業。植物を利用した燃料で、環境に優しい新エネルギーとして注目されている。

同社が原料として注目したのがコメだ。エタノール収量はコメ1ト当たり302・8トで、世界の主流であるトウモロコシに匹敵する。全国で生産できるだけでなく、既存農家が新たな設備投資なしに生産できることが魅力だ。そして、なによりも「地域の基幹産業である農業と建設業を活性化させることが、地域の発展につながる」（深松氏）と確信している。

事業化の鍵は生産コストの抑制。飼料用の多収米を作付けし、1反歩当たり「ひとめぼれ」の1・5倍に相当する12・5俵の収穫に成功したが、それでも生産コストは1

池システムの開発

「自然エネルギーを扱う」として企業イメージが向上した。社員の意識も変化し、夢を語るようになった。水素のままで貯蔵。必要な時に

◆廃石膏マテリアルリサイクル事業
長崎県諫早市の真人は、公共事業に陰りを感じ2003年から産業廃棄物中間処理業を開業。年々、石膏ボードの排出量が増加していることから、廃石膏マテリアルリサイクル事業に乗り出した。

このシステムは、太陽光、マイクロ水力など、自然エネルギー発電を水電解で燃料電池で発電用途は中性固化剤、凝集剤、緊急電源や電力など幅広い。特に中性固化剤は、事情の悪い山岳地帯、孤島などでの利用を想定している。

燃料電池で発電用途は中性固化剤、凝集剤、緊急電源や電力など幅広い。特に中性固化剤は、事情の悪い山岳地帯、孤島などでの利用を想定している。

05年には長崎県の県産品に認定された。

真人の山本芳弘氏は「安全以上を投じた性は確認できた。行政での実績が増えれば早い時期に全国展開できる」と展望を語った。

真人の山本芳弘氏は「安全以上を投じた性は確認できた。行政での実績が増えれば早い時期に全国展開できる」と展望を語った。



真人の山本芳弘氏は「安全以上を投じた性は確認できた。行政での実績が増えれば早い時期に全国展開できる」と展望を語った。

バイオエタノール事業に取り組む深松組（宮城県）の深松努氏は、「生産コスト抑制が事業化の鍵」と指摘

助金頼みからの脱却が今後の課題」と言う。 ※毎週火・木曜に掲載

環境が企業イメージ向上に

水素
燃料電池